令和4年度　学校評価総合シート　保護者①

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	学習指導要領の指導内容に基づいた指導計画を作成し、8つの観点に応じた評価を図る。	保護者	個別の支援計画や連絡帳などを通して、子どもの状態が分かり、成長を感じることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	95 56 1 0 1	62% 37% 1% 0% 1%	達成	ほとんどの保護者が成長を感じているので、以降も支援計画や日々の連絡帳でのやりとりをしっかりしていきたい。年齢が上がるにつれて生活についての細やかな表現がなくなることに不満を感じる保護者もいる。	その日にできたことや長期間かけてできたことなど都度保護者と共有できることを大切にしつつ、思考・判断・表現している姿や、学びに向かう姿についても成長として捉えられるように伝えていけるとよい。
	学習指導要領を基に、児童生徒が主体的に取り組めるような授業づくりを工夫する。	保護者	連絡帳や懇談会などのやり取りから、児童生徒が主体的に授業に取り組んでいると感じることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	98 50 5 0 1	64% 32% 3% 0% 1%	達成	懇談会や連絡帳のやりとり等を通して、子どもの頑張っている姿や伸びた点などを伝えることで、保護者にも成長を感じていただけたと思う。	今後も保護者懇談会等で、どう伸びたかをより具体的に伝えるようにしていく。また、お便り等を通して学校での支援方法を伝えていくようにする。
人権教育・生徒支援	学校での取組を発信したり、児童生徒の支援策を保護者と考えたりするなど、家庭と連携して支援・指導を行う。	保護者	人とのかかわり方やネットの使い方についての学校の取組を知ったり、家庭での支援を考えたりすることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	49 85 19 0 1	32% 55% 12% 0% 1%	達成	各学部の教員が積極的に指導を行い、取組を学部便りでお知らせしたことで目標を達成できたと考える。高等部では、「我が家のスマートルール」について家族で話し合ってもらった。家庭での支援をより具体的に提案していけるとよい。	タブレットやネットゲーム利用に関する問題などの情報を定期的に家庭に発信して保護者の意識を啓発し、家庭でできる支援について学校での取組を紹介しながら一緒に考える。
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	保護者	進路希望調査や説明会、相談会などを通して、進路選択に必要な情報を入手することができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	59 75 19 0 1	38% 49% 12% 0% 1%	達成	様々な機会を通じて、児童生徒の進路実現に関する情報を提供することができた。保護者が日頃から感じている希望や不安を、さらに的確に把握できるとよい。	進路希望調査の結果や保護者懇談会の内容について、担任教諭と連携して情報共有を図る。保護者の抱く希望や不安を把握し、適切に情報を提供する。
保健・安全	生命の安全教育を踏まえた教材を活用しながら、学部舎で児童生徒に応じた指導や支援を行えるよう、教職員の意識の底上げを図る。	保護者	学校の性に関する指導や清潔指導についての取組をおたよりや連絡帳などを通じて知ることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が70%以上	A B C D 無	42 89 22 1 1	27% 57% 14% 1% 1%	達成	今年度から「こころ＊からだ通信」を年2回発行した。グループやクラスでの取組はそのつど連絡帳を通して伝えているが、保護者の15%は不十分と感じていることが課題である。	「こころ＊からだ通信」をHPに掲載する。通信は保護者に向けて一方通行なので、保護者からの意見や感想をもらえる欄を作成する。また、グループやクラスでの取組については周知の仕方を検討する。特に高等部だよりではプライバシーに配慮した取組を掲載できるとよい。

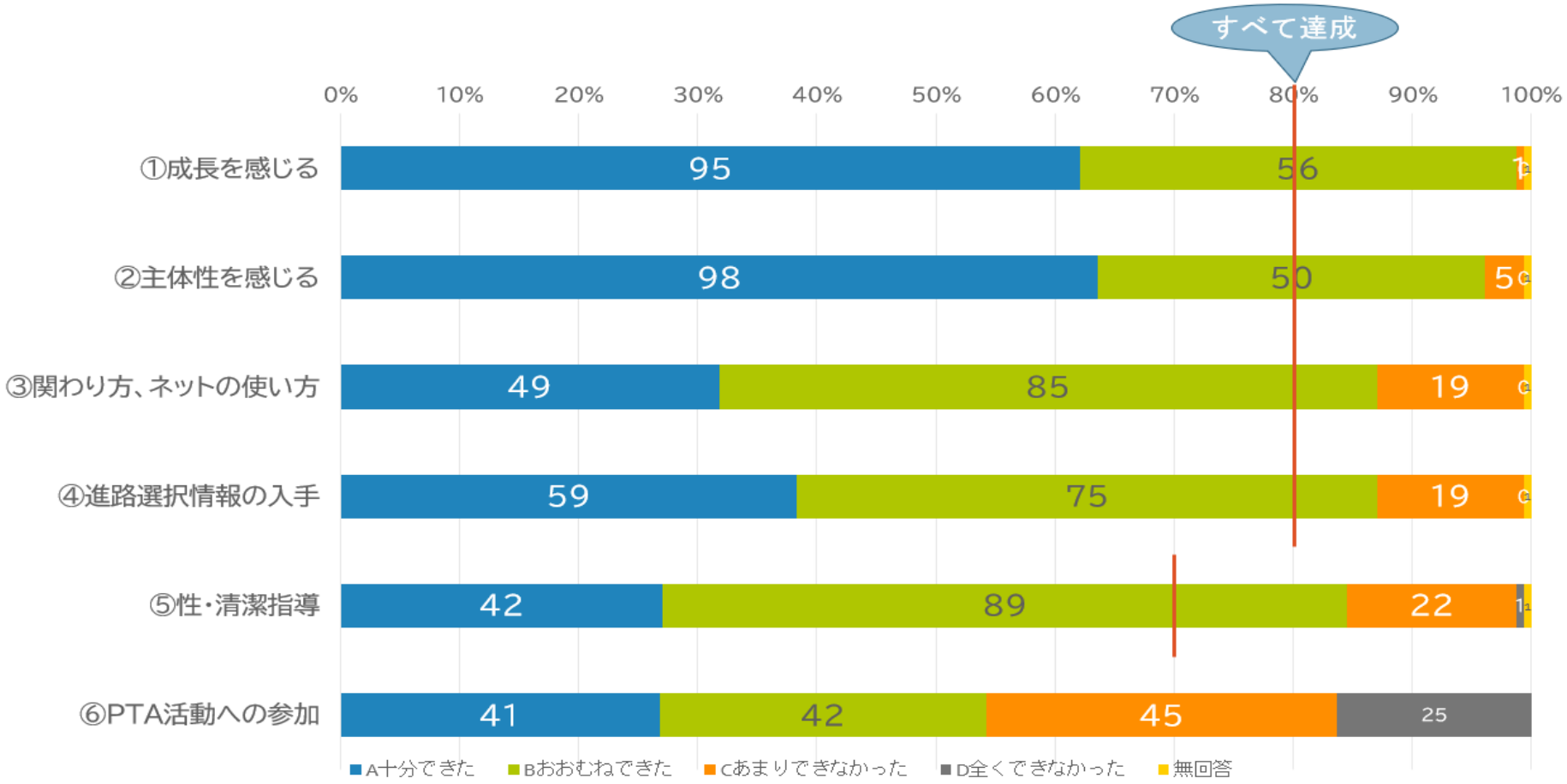
※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

PTA活動アンケート（学校評価アンケート付属）

回答者	観　点	判定基準		
保護者	PTA活動に何回参加できたか。 ・PTA新聞を読む・投稿する（9月、3月） ・PTA役員の選出用紙を提出する（4月） ・総会資料を読み決議書を提出する（5月） ・制服等リサイクルに参加（提供・利用）する（5月、10月） ・PTAの奉仕活動に参加する（10月） ・各種事業案内等を読む 　夏休み親子の日（8月）、教育視察（8月）、保護者学習会（11月） ・ベルマークに協力（ベルマークを集める）する ・役員会（紙面開催）等に参加する	A B C D	41 42 45 25	27% 27% 29% 16%

「D全く参加できなかった」の理由
日程的なこと　2
内容的なこと　0
関心がない　1
家庭の都合　9
その他　1
回答無し　12

令和4年度　学校評価総合シート　保護者②



令和4年度　学校評価総合シート　教職員①

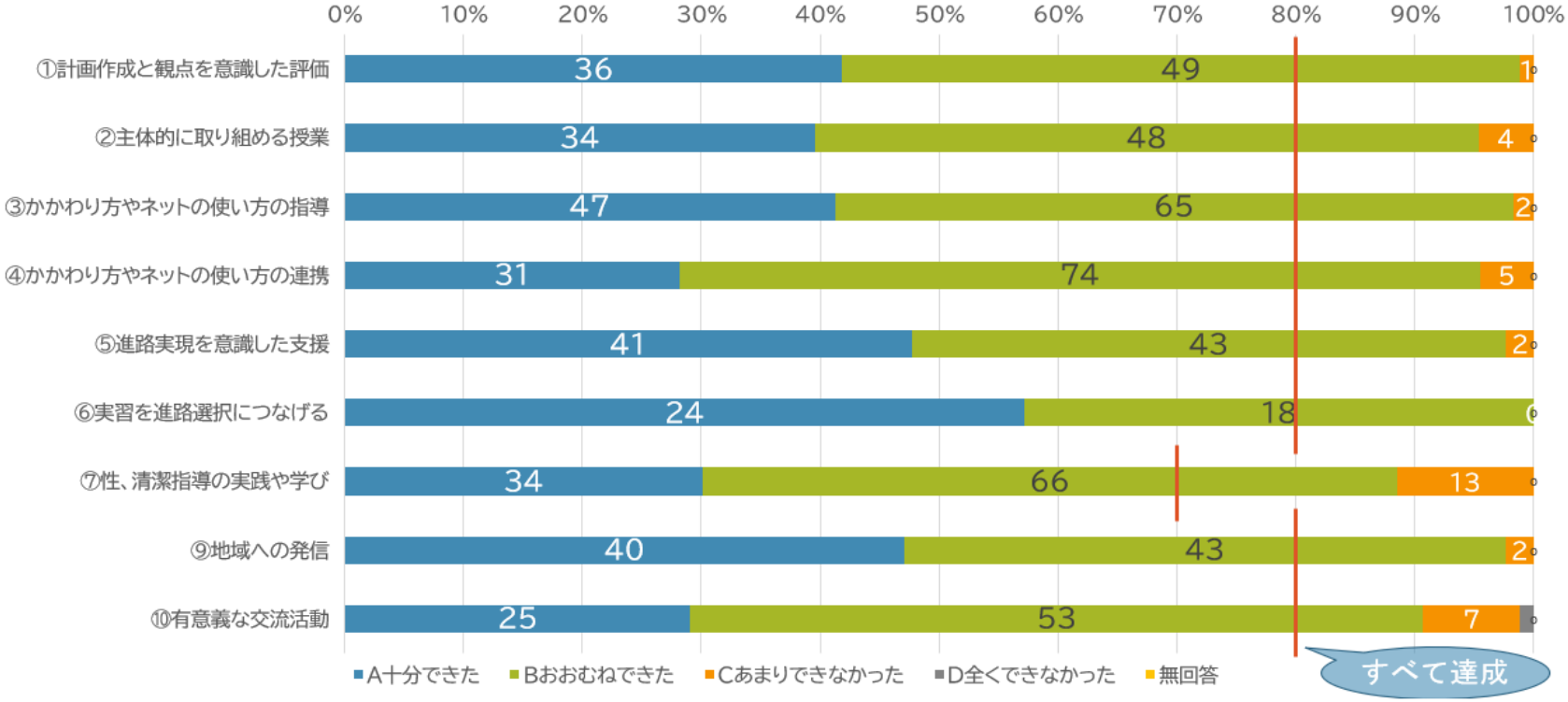
項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
教育課程・学習支援	学習指導要領の指導内容に基づいた指導計画を作成し、3つの観点に応じた評価を図る。	小中高教員	学習指導要領の指導内容に基づいた指導計画を作成し、3つの観点を意識した評価をすることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A	36	42%	達成	個別の指導計画を立てるときに活用するなど、学習指導要領を指導に生かすことが定着した。3つの観点を意識した評価については意識できてきているが、評価が難しい観点も見られる。	3つの観点でも、思考・判断・表現、学びに向かう力の2つの観点の評価の難しさが見られた。どのような場面を評価するか、どう表現するかなど共通理解を持てるようにしていきたい。また、日々の評価でも意識できるとよい。
				B	49	57%			
				C	1	1%			
				D	0	0%			
				無	0	0%			
	学習指導要領を基に、児童生徒が主体的に取り組めるような授業づくりを工夫する。	小中高教員	学部研究会等で話合い、児童生徒が主体的に取り組めるような授業をすることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A	34	40%	達成	研究会等で主体的に取り組める授業について検討し、それに基づいて授業内容や支援方法について話し合うことで、子どもの目標を教員間で共有しながら授業を行えた。	今後も、児童生徒が主体的に取り組む授業づくりを行うため、子どもの実態に合わせた目標を立て実践を行う。また、目標を達成するための効果的な支援方法について検討する。
				B	48	56%			
				C	4	5%			
				D	0	0%			
				無	0	0%			
人権教育・生徒支援	（異性とのかかわりを含む）人とのかかわり方やネットの使い方についての支援・指導を行い、いじめやトラブル防止に努める。	小中高教員・管・養・舎	人とのかかわり方やネットの使い方について積極的に支援・指導を行うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A	47	41%	達成	特に高等部では、昨年度よりもさらに情報モラル教育に取り組んだ。今後は、小中学部ではネット利用、高等部では性に関することにさらに取り組んでいく必要がある。	タブレットやネットゲーム利用に関する問題や対策方法などの情報を指導部から提供し、小中学部での指導に生かす。高等部では各教科で連携して性教育を進め、性トラブル防止を図る。
				B	65	57%			
				C	2	2%			
				D	0	0%			
				無	0	0%			
	学校での取組を発信したり、児童生徒の支援策を保護者と考えたりするなど、家庭と連携して支援・指導を行う。	小中高教員・舎	人とのかかわり方やネットの使い方について、家庭と連携して支援・指導を行うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A	31	28%	達成	連絡帳のやりとりをはじめとする家庭と連携した取組ができた。ほとんどの教職員が家庭と連携して支援・指導ができたと答えた。ネットの使い方について、今後は小中学部の保護者にも課題意識を持ってもらえるように発信していく必要がある。	タブレットやネットゲーム利用について、家庭での様子を聞き取り、必要な支援や指導について連絡帳や懇談で話し合うようにする。
				B	74	67%			
				C	5	5%			
				D	0	0%			
				無	0	0%			
進路支援	希望調査や説明会、相談会といった進路関連行事のほか、生活や学習活動など、学校生活のあらゆる場面において、児童生徒の卒業後の生活を意識した支援を行う。	小中高教員	授業や学校行事などの様々な場面において、児童生徒に対して進路実現を意識した支援を行うことができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A	41	48%	達成	児童生徒の進路実現をふまえた支援に対する、教職員の関心の高まりを感じる。 小学部や中学部では、そもそも児童生徒の進路実現を具体的に意識することは少し難しいのかもしれない。	高等部での産業現場等における実習からフィードバックされた支援方法に関して情報を提供し、日々の学校生活における進路支援が、より実践しやすくなるようにする。また教員を対象とした進路支援に関する学習会を催す。
				B	43	50%			
				C	2	2%			
				D	0	0%			
				無	0	0%			
	高等部での産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	高教員	産業現場等における実習を生徒の進路選択につなげることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A	24	57%	達成	実習の準備や振り返りを行ううえで、教職員間の連携を深めることができ、とくに高等部C課程でも激励会や反省会を開催できた。実習に臨む雰囲気をより良く醸成して、さらに意義深い実習にできるとよい。	産業現場等における実習に関する事前あるいは事後の学習について、より効果的かつ効率的な方法を提供する。
				B	18	43%			
				C	0	0%			
				D	0	0%			
				無	0	0%			
保健・安全	生命の安全教育を踏まえた教材を活用しながら、学部舎で児童生徒に応じた指導や支援を行えるよう、教職員の意識の底上げを図る。	小中高教員・栄・養・舎	性に関する指導および清潔指導について実践したり、学習会や資料等から学んだりすることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が70%以上	A	34	30%	達成	講師を招いて性指導講演会を実施できた。講演会の開催が夏季休業中であったため参加できなかった教職員もいたと思われる。教職員が性指導や清潔指導について学んだり深めたりなど、継続できることが今後の課題である。	性指導に関する研修会の機会を設定し参加を呼び掛けたり、保健部や性指導グループ会から学部舎への発信をしたりする。
				B	66	58%			
				C	13	12%			
				D	0	0%			
				無	0	0%			

※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。

令和4年度　学校評価総合シート　教職員②

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
地域交流	地域（家庭・福祉・医療等）と連携し、特別支援教育に関する理解を促す。	小中高教員	家庭や地域、関係機関と連絡を取り、本校の教育活動について発信し、児童生徒についての理解を求めることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	40 43 2 0 0	47% 51% 2% 0% 0%	達成	毎日の連絡帳で授業の様子を丁寧に伝えたり、保護者懇談会等で児童生徒の成長について保護者に説明を行ったりした。さらに、学部だより、HPなどで本校の教育活動について発信を行った。また、必要に応じて、事業所など関係機関との支援会議を開催し、児童生徒について必要な情報を提供するとともに、支援についての共通理解を図ることができた。	今後も伝えたい活動に応じて、写真や動画などの有効な手段を柔軟に活用しながら、本校の教育活動の発信に努めていきたい。児童生徒の状況を的確に把握し、必要に応じてより速やかに家庭や地域、関係機関と連携が取れるよう努めていきたい。
	居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習等の活動を通して、地域の人と関わる機会を設け、より有意義な交流活動となるよう工夫する。	小中高教員	活動のねらいや目標について検討し、より有意義な交流活動ができるよう工夫することができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D 無	25 53 7 1 0	29% 62% 8% 1% 0%	達成	居住地校交流や校外学習、地域交流、産業現場等における実習等における目標や内容について、児童生徒の気持ちを聞き取りながら検討を行った。事前学習等を通して児童生徒が目標を意識して地域とのかかわりに臨めるように支援すると共に、実施後は児童生徒と振返りを行った。交流を行う児童生徒の担任や校外学習の担当教員だけでなく、学年・学部の教員全体で、児童生徒一人一人の交流の目標などについて共通理解を深めていけるとよい。	今後も児童生徒一人一人にとっての地域とのかかわりにおけるねらいを検討し、相手先と共通理解を深めながら交流を行っていきたい。学年会や学部会等で一人一人の交流の目標や経過などについて報告・検討する機会を設けていきたい。

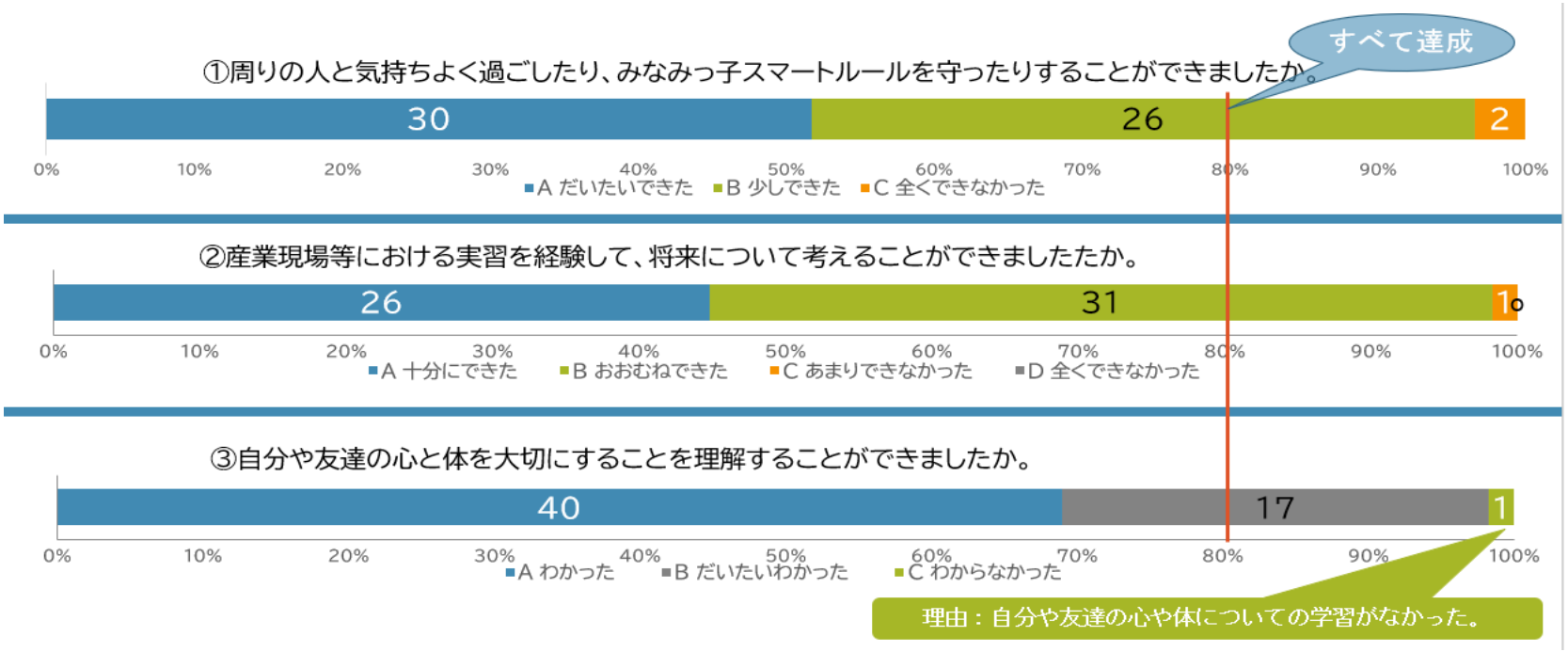
※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。



令和4年度　学校評価総合シート　生徒

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
人権教育・生徒支援	(異性とのかかわりを含む)人とのかかわり方やネットの使い方についての支援・指導を行い、いじめやトラブル防止に努める。	高等部 A・B・(D) 課程生徒	周りの人と気持ちよく過ごしたり、みなみっ子スマートルールを守ったりすることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C	30 26 2	52% 45% 3%	達成	生活指導だけでなく、生単の授業や学級活動、個別の指導等で丁寧に支援・指導を行った。細かいトラブルはあるので、今後も人とのかかわり方やスマホの使い方について継続して指導が必要である。	今後も、保健体育や生単の授業と連携して、情報モラル教育を進めると共に、友達や異性と付き合うときの最低限のマナーやストレスとの付き合い方などの指導も行っていく。
進路支援	高等部での産業現場等における実習が、進路選択の参考となるように充実させる。	高等部 A・B・(D) 課程生徒	産業現場等における実習を経験して、将来について考えることができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C D	26 31 1 0	45% 53% 2% 0%	達成	産業現場等における実習を経験することによって、高等部生徒に進路選択について考える機会を設けることができた。生徒が自分の希望する実習先について、さらに深く考えるようにできるとよい。	進路希望調査や保護者懇談会、生徒との懇談等の内容を担任教諭と共有して、本人に適切な実習先を提供して、生徒が主体的に進路について考えられるようにする。
保健・安全	生命の安全教育を踏まえた教材を活用しながら、学部舎で児童生徒に応じた指導や支援を行えるよう、教職員の意識の底上げを図る。	高等部 A・B・(D) 課程生徒	自分や友達の心と体を大切にすることを理解することができたか。 【目標指数】A＋Bの合計が80%以上	A B C	40 17 1	69% 29% 2%	達成	生徒が心や体について学び自分や相手のことを考える機会が持てた。今後は学部全体で指導を繰り返したり積み上げたりしていけるとよい。	一部の教科だけでなく複数の教科で取り組めるよう内容を整理し、年間指導計画に位置づけていく。

※パーセンテージは小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない項目があります。



令和4年度　学校評価総合シート　交流先

項目	具体的取組	回答者	評価の観点・目標指数	判定基準				成果と課題	改善策・向上策
地域交流	居住地校交流、学校間交流、地域交流、校外学習等の活動を通して、地域の人と関わる機会を設け、より有意義な交流活動となるよう工夫する。	交流の相手先	ねらいに即した地域とのかかわりができたと感じることができたか。 【目標指数】Aが80%以上	A	99	100%	達成	居住地校交流や校外学習、地域交流、産業現場等における実習等の活動後、相手先にアンケートを行った。「子ども園での友達と久しぶりの再会をお互いに楽しみながら会話ができていてよかった。」「互いの学校の共通点や相違点を発見したり同じ地区に住んでいるからこそわかる話ができたりするなど、楽しく交流ができた。」「スピーチで自分の休日の出来事を分かりやすく話すなど、まわりの人とコミュニケーションをとっていた。」などの感想が寄せられた。お互いにとって貴重な交流の機会となっていることがうかがえた。	今後も、ねらいに即した地域とのかかわりをしていくために、対面や作品交換、リモートなど、いろいろな方法を活用して交流の拡充に努めたい。本校児童生徒の目標だけでなく、相手先の考えや目標なども丁寧に聞き取りながら、双方にとって有意義な交流のあり方を今後も考えていきたい。
				B	0	0%			
				無	0	0%			

※100%のためグラフは割愛します。

自由記述

小学部（付記無しは交流先の学校の教員）

公共の場所で静かにでき、本を興味深そうに選んでいた（県立図書館）	話を聞こうとする姿勢を感じられた。使いにくい道具も工夫して使っていた。（福井市美術館）
園の時よりやり取りが続き成長を感じた。こちらの児童も一人一人役割を果たせた。	低学年の頃よりも大変落ち着き、全ての活動に参加できるようになっていて成長を感じた。
Bさんの来校を楽しみに準備を進めていた。当日もBさんの手作りプレゼントに喜んでいた。	「家が近い」「放デイが一緒」と喜ぶ児童が居た。Cさん自作のゲームやクイズで一緒に交流できた。
Aさんとまた会いたい、交流したいと言うようになった。	1時間クラスのみんなと楽しく過ごせた。久しぶりに会えて嬉しそうな子が多くいた。
対面の交流はお互いの児童にとって得るものが多いと感じた。	Zoomを活用して直接交流と間接交流を児童の実態に応じて使い分けられて良かった。

中学部（付記無しは交流先の学校の教員）

レザークラフトは楽しく取り組めた。準備に感謝です。	心温まる作品ばかりだった。技法も考えられていて、ぜひ学ばせて頂きたいと思った。（中学校での作品展示）
慣れない場所でも得意なことに集中して丁寧に取り組んでいた。帰りに大きく手を振ってくれたと喜んでいた。	互いの学校の共通点や相違点を発見したり、同じ地区に住んでるからこそ分かる話ができたりした。相手の頑張りを知り励みになった生徒もいた。
交流を通して、通っている学校は違っても同じ校区に住んでいる相手に対し思いをはせながら活動できた。	こちらの生徒の名前を呼んで関わろうとしたり、中学校の校舎の様子を見て気付いたことを話したり、飾ってあった作品を喜んだりして嬉しい気持ちになった。

高等部

実習当初は緊張していたが、徐々に慣れて、いろんな活動に前向きにチャレンジしていた。	スピーチで自分の休日の出来事を分かりやすく話すなど、まわりの人とコミュニケーションをとっていた。
生徒から質問や要望をしっかり伝えてくれた。	一度注意されたことに気を付けながら丁寧に作業していた。
何事にも丁寧に一生懸命に取り組んでいた。	実習中に疲れが出た際に、自分でストレッチをして工夫する姿が見られた。
一生懸命学ぼうとする姿勢が伝わった。	他の利用者の方に優しく製品を手渡すなど、適切に関わる姿が見られた。